

平成23年産

コシヒカリBLの品種構成が変わります

コシヒカリBLは、いもち病の抵抗性が異なる数種類の品種を混合して栽培するもので、いもち病の発病抑制効果を安定して維持するため、計画的に品種構成を変えていくこととしています。種子更新を確実に実施するようお願いいたします。



現在のコシヒカリBL <small>平成22年産</small>		※()内は混合率	
1号 (10%)	2号 (20%)	3号 (35%)	10号 (35%)
↓			
次期のコシヒカリBL <small>平成23～25年産</small>			
1号 (10%)	2号 (20%)	4号 (35%)	11号 (35%)

次期 (平成23年産) のコシヒカリBLについて

- 平成23年産からの品種構成の変更にあたり、次期のコシヒカリBLと現在のコシヒカリBLの生育、収量及び品質等を比較するため、本年度、県内14地域に実証ほを設置して調査をしました。
- 調査の結果、次期のコシヒカリBLと現在のコシヒカリBLの生育、収量及び品質・食味は、ほぼ同等でした。

参考：平成22年度 実証ほ調査結果 (県内14地域平均)

生育・収量	次期のBL	現在のBL	収量構成要素	次期のBL	現在のBL
田植期	5月15日	5月15日	穂数	315本/㎡	319本/㎡
出穂期	8月8日	8月8日	1穂籾数	87粒	84粒
成熟期	9月16日	9月16日	総籾数	273百粒/㎡	267百粒/㎡
稈長	96cm	97cm	登熟歩合	86.9%	87.8%
倒伏程度*	3(中)	3(中)	千粒重	22.0g	22.1g
玄米重	512 kg/10a	510 kg/10a	※倒伏程度：0(無)～5(甚)		

外観品質・食味関連成分	次期のBL	現在のBL	食味調査	次期のBL が優れる	同じ	現在のBL が優れる
整粒割合 (機器判別)	62.6%	64.0%	食味試験結果 調査人数：328人(目隠しでの食べ比べ)	27%	45%	28%
玄米タンパク質含有率	5.7%	5.8%				

いもち病多発生地では、コシヒカリBLの防除対応の徹底をお願いします

- 平成22年産では、コシヒカリBLの抵抗性品種 (BL3号、4号、10号) に感染するいもち病菌が、県内のいもち病多発生地を中心に確認されています。
- 今後ともコシヒカリBLを安定して栽培していくために、いもち病多発生地では、次のとおり防除対応を徹底するようお願いいたします。

対象地域	防除方法
いもち病多発生地*	育苗箱施用剤等による葉いもち1回防除

※コシヒカリBL導入前に従来コシヒカリで葉いもちの予防的防除を実施していた地域 (それぞれの地域の状況等については、最寄りのJA又は農業普及指導センターにお問い合わせください。)

新潟米ブランド強化推進運動委員会

新潟県・JA新潟中央会・JA全農にいがた・新潟県主食集荷商業協同組合・新潟県種子協会